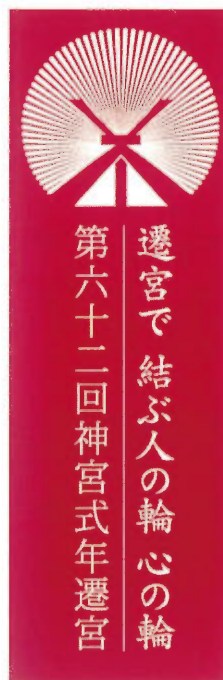


# 神島宮司退任 後任宮司に高向権宮司就任



# 宗 像



## 7月祭事暦

毎月1・15日 **月次祭**  
 午前10時～  
 高宮祭  
 第二宮・第三宮祭  
 宗像護国神社祭 (1日)  
 午前11時～  
 総社祭  
 浦安舞奉奏 (1日)  
 豊栄舞奉奏 (15日)  
 27日 午前9時～  
**第54回中津宮七夕揮毫会**  
 於＝筑前大島 中津宮  
 31日 午後5時～  
**夏越の大祓神事**  
 大祓式 於＝神門前  
引き結ぎ  
 夏越祭 於＝本殿

## 御挨拶

盛夏の候、宗像大社御崇敬の皆様には愈々御清祥の段、慶賀に存じ上げます。

さて、私儀、平成十五年四月以来、宗像大社宮司として神明奉仕に勤めて参りましたが三月末をもちまして退任致しました。

昭和四十六年に奉職以来、三十八年間に亘り大過なく神明奉仕出来ましたことは、宗像大神様の御加護はもとより職員をはじめ、氏子崇敬者、関係各位の皆様方の公私にわたる格別の御支援と御芳情によるものと衷心より厚く御礼申し上げます。

神島 定

盛夏の候、皆様益々ご清祥の事とお慶び申し上げます。

今般、神島宮司が御勇退され、不肖私儀その後任に推されて、七月一日付で宮司に就任致しました。

素より浅学非才の身、職責の重大さを厳かにうけとめ、御神威を畏み、微力ながら誠心誠意全力を傾注し社務に精励する所存でございます。

何卒倍旧の御指導御鞭撻をいただき、前宮司同様の御厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

宗像大社 宮司 高向 正秀

いよいよ、暑い夏がやって来る。ここ数年は猛暑が続き、局地的豪雨、最高気温の記録更新などのニュースをよく聞く。都市部では建物が密集し、道路はアスファルトで固められているため、ヒートアイランド現象が起き、それが原因で異常気象が発生している▼国内でも温暖化対策への取り組みとして、家電製品のエコ化や環境対応車の開発、太陽光発電の開発など色々なことが推進されているが、このような環境問題を考える時、身近な神社には古来から守り続けてきた鎮守の杜がある▼数年前、國學院大學が都内にある神社の杜を調査した結果、日本の平均的な森に比べて三倍以上も二酸化炭素を蓄積していたそうである。神社には楠や椎木、榎木など二酸化炭素の吸収力の高い、樹木が多いからである。最近、鎮守の杜が地域の環境保全からの面も注目されており、地球温暖化防止からも長く保護しなければならぬ▼昔から、神が宿る神聖な場所として「畏れ」の念を持ち、鎮守さまや氏神さまとして親しみ、守り続けられてきた「鎮守の杜」。暑い夏は身近にある神社に参拝し、心身を癒し自然と人との豊かな関係をじっくり実感していただきたい。

(杉)

神具・装束・授与品

井筒

築東店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る  
 フリーダイヤル 0120-075-980  
 福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401  
 フリーダイヤル 0120-055-092  
 授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23  
 フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

総合建築業 **株式会社 弘江組**

〒811-3406 福岡県宗像市福元4丁目-20 電話(0940)32-2567

# 神島宮司の御足跡

去る三月三十一日を以つて神島宮司が退任された。

神島宮司は福岡県苅田町のご出身で、國學院大學文学部神道学科を昭和四十三年三月卒業。同年四月に箱根神社奉職、同四十四年には東京大神宮に奉職された後、同四十六年四月、宗像大社に奉職された。

当時は、昭和四十四年に着工した、宗像大社復興期成会の一大事業である、辺津宮本殿解体修復工事を始めとする昭和の大造営事業もほぼ完成し、新たな息吹を感じさせる「遷座祭」を間近に控えた時期でもあった。

以来、実に三十八年間に亘



り御奉仕され、温厚篤実で職員との融和に努められ、地域との繋がりを大切にされながら神道人として神明奉仕に精励された。

近年、体調が思わしくない中で激務を重ねられていたが、沖津宮を始め三宮の奉仕に支障を来たすのは本意でない、此の度、辞任の意向を示され、三月の責任役員会において受理され、六十四歳を以つて退任された。

神島宮司は奉職後、度々行われた御造営に手腕を発揮しつつ、雅楽に精通し本社本庁より雅楽講師を任命され後進の指導にも勤めた。また昭和天皇御即位の折に、宮内庁より宗像大社に特別

に下賜された「主基地方風俗舞」を継承すべく、同保存会の再編にも尽力され基盤を整えられた。

地域では「神郡宗像フオルクロー

レ」という、南米音楽のバンドを結成し、地域の学校や福岡県内外でボランティア演奏を行いながら、地元の子供たちには野球の指導を行うなど、違った角度から神社に親しみを持つる活動を行い、地域の社会教育にも力を注がれた。

昭和六十三年儀式課長、平成二年に禰宜に昇任し、庶務部長に就任してからは、長年の懸案であった上下水の完備に着手、汚水処理水を自ら実験台になり飲んでみるなど、他人には見えない所での努力を幾度となく重ねられた。

平成九年、太田宮司就任と共に権宮司に昇任され、宮司の支えとして社務所内の指揮を取り、同十五年四月、太田宮司の後を受け宮司に就任、六年間社務運営に卓越した指導力を発揮された。

宮司在任中には、地元の青年達が「由緒ある宗像の地に生まれた事に誇りを持って頂きたい」との信念により、氏子青年会の結成を全面的に支援し、中世の「八乙女神事」を基に



秋季大祭を締め括る「高宮神奈備祭」を六三〇年振りに復興された。

同十九年には福岡県神社庁副庁長に推挙され、県内の神社界においても大きく寄与された。

本年二月に宗像大社復興期成会の最終事業である『宗像大社文書』第三巻が刊行され、去る二月十七日に神島宮司が宮中に参内し、天皇皇后両陛下、皇太子殿下、各宮家へ献上申し上げた。これにより宗像大社復興期成会の事業が全て終了する事となり、神島宮司の退任とも重なった。





# 平成三十一年度 宗像大社氏子会総代総会開催

五月十九日、当大社清明殿で今年度第一回目の子会総代総会が安部照生会長以下一〇二名出席の下開催された。

まず、古賀副会長より開会の辞があり、続いて神宮並皇居遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領を一同唱和し、会長・宮司挨拶の後、来賓挨拶として福岡県議会議員阿部弘樹氏より御挨拶を賜り議事へと入った。

安部会長が議長に選出されて議事の審議は始まり、事務局より平

成二十年度の氏子会事業報告と決算報告の後、城野監事より会計監査を行なった上で決算報告に相違がないことが述べられ、全会一致で承認された。次に平成二十一年度氏子会事業計画案、予算案について事務局より説明され、こちらも全会一致にて承認された。

次に、氏子会組織の由来について事務局より説明され、氏子会費取り纏めについて総代皆様の御理解と御協力のお願いがなされた。また、七月に開催される氏子会

研修旅行参加申込みの件について事務局並びに旅行代理店担当者より説明があり、多数の参加を呼びかけた。

最後に、本年度より総代・評議員に新たに就任頂いた方々への委嘱状伝達式が行なわれ、該当者を代表して田島地区牟田尻の中野健介評議員に安部会長より委嘱状が手渡され、村田副会長の閉式により総会無事閉会した。

本年度より新たに御就任頂いた新役員、総代・評議員の皆様には今

# 平成三十一年度 宗像大社氏子青年会総会開催

六月一日宗像大社氏子青年会(会長・小林栄二)の総会が当大社清明殿において開催された。

総会は、嶺副会長が開会の辞を行い、神宮並皇居遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領を唱和し、小林会長・高向権宮司が夫々挨拶を行った。次に井浦会員を議長に選出し、議事審議に入った。

事務局より平成二十年度事業・

決算報告並びに磯部監事より決算監査報告が行われ、全員一致で承認された。次に、今年度役員選出の件、又新会員の紹介が行われた、引き続き平成二十一年度事業計画案・予算案の説明が事務局より行われ、こちらも全員一致で承認された。総会では戸波副会長の閉会の辞を以

って滞り無く終了した。

大社を中心とした神郡宗像の発展と、誇りある我が国の伝統文化を次世代へと伝えるべく結成された当大社氏子青年会も今年で五年目を迎え、会員も六十一名を数える。今年より雅楽講習会を開き、当大社祭事での奉奏を目標に日々練習に励んでいる。



敬神生活の綱領唱和  
挨拶  
議事  
閉会の辞



後の大社の諸行事・祭典等への御協力をお願いと共に引き続き総代・評議員をお引受け頂いた方々にも更なるお力添えをお願い申し上げます。

# 沖津宮現地大祭

## 世界遺産暫定リスト入り後初。晴天の中、約二六〇名が渡島参拝

宗像大社沖津宮の現地大祭が、五月二十七日沖ノ島で斎行された。初夏の潮の香漂い、新緑に包まれるこの日本海海戦の記念日を卜して年に一度だけ一般参拝者の渡島が許される。

三月下旬より、全国から申し込みをされた方々の中から、厳正に選定された約二六〇名の参拝者は、前日の二十一日に筑前大島に参集。中津宮社務所で受付を済ませ、午後六時から斎行の渡島安全祈願祭に参列し、翌日の無事の渡島を祈念した。

午前七時三〇分、大島渡船「しおかぜ」、海上タクシー「宝栄丸」、チャーター船「恵比須丸」「恵比須丸Ⅱ」「アクアシャイン」の各船に乗船。家族・関係者の見送り受け一路沖ノ島を目指した。特に今年は大島渡船「しおかぜ」が新船となり乗船された方々は、快適な船旅を楽しまれた。

向権宮司が日本海海戦を顧みて国家・皇室の御安泰、参列者をはじめ国民の平穏を祈る祝詞を奏上。続いて権宮司以下各代表者が順次玉串を奉奠、敬虔な祈りの中祭典は滞りなく終了した。

その後、波止場で沖・中両宮奉賛会、同翼賛会の皆様により調理された刺身、煮魚、その煮汁でいただくソーメンに一同舌鼓を打ちながら、神の島での一時を過ごした。

正午過ぎ、参拝者は各船に乗り込み沖ノ島を離島、ゆつくりと島を一周し午後二時過ぎには全船が大島に到着、参

拝者はその場で解散となりそれぞれ帰路についた。一方、沖ノ島に渡島出来ない女性・子供は、現地の祭典とほぼ同時刻に大島「沖津宮遥拝所」の祭典に参列し、遙か沖ノ島に祈りを捧げた。

祭典後、高向権宮司が現地大祭に際しての挨拶をし、各班ごとに引率担当神職からの説明、諸注意を受け、各自大島の宿に参籠した。

当日は、「天気

晴朗なれども波高し」といった日本海海戦当日を彷彿とさせる、まさに好天だが海上時化気味の天候となった。

い心身共に清めて、島の中腹に鎮まる沖津宮本殿へと樹林の生い茂る四百段に及ぶ参道を進んだ。

午前九時三〇

分、沖津宮現地大祭斎行。御神前には全国各地の参拝者から御神酒・奉獻品がお供えされ、高





うで、事前に説明しているにもかかわらず、禁止している祭祀遺跡へカメラ片手に立ち入る方が見受けられ神職が注意する場面が何度かあった。神社としては世界遺産に関して中立の立場を保っているとはいえ、今後信仰や尊厳の護持、文化財保護の観点からも、一般参拝の方々へ参拝心得を遵守していただくと共に、憂慮すべき事態を迎えないことを願うばかりである。

## 宗像大社菊会 玄海小学校に菊資材を贈呈

初夏の陽気を思わすような好天の六月二日地元玄海小学校体育館で、宗像大社菊花会(千々和正信会長)からの菊資材贈呈式が行われた。

同校では毎年児童の情操教育の一環として、児童・教員・PTAが一丸となって菊作りに取り組んでおり、当大社もその活動に賛同、児童の豊かな心を育む一助になればと協力し、今年で十年目となる。

当日午前九時に当社より担当神職と巫女が出向し、玄海小学校体育館にて菊資材贈呈式が全校生徒参加のもと開会された。

資材を受取った児童代表は、「いつも菊作りに必要な資材、菊花をいただきありがとうございます。今年も菊作りをして十年目になりました。昨年よりもっと大きく、綺麗な花を咲



かせると抱負を述べた。その後、菊作りの指導にあたってのボランティア「玄海小の会」の小並会長より「玄海小学校で一緒に菊作りを始め今年で十年目となります。みなさんの先輩から受け継いだ立派な菊花を今年も宗像大社や校内・市内各施設で楽しみに待たれている方もいらつしやいます。のびのびと元気な菊と一緒に作っていきましょう。」と挨拶があった。

翌日からは早速、匠の会の方々と菊作りが始まるようである。秋には児童たちが一生懸命育てた菊花が校内菊花展をはじめ、当大社境内で行われる西日本菊花大会、地元の各施設などで飾られ、多くの方々の目を喜ばせるだろう。児童が丹精込めて作る菊がどのような花を咲かせるのか今から楽しみである。



### 第38回

## 『宗像大社短歌大会』のご案内

- 日時=平成21年11月15日(日)  
小中高生の部 9:30~11:00  
一般の部 12:00~15:40
- 会場 宗像大社「清明殿」(宗像市田島2331)
- 応募方法  
◆詠草…小中高生は1人1首。一般は1人2首まで可(未発表のもの厳守)。B4の400字詰め原稿用紙の右半分に楷書で作品(固有名詞など難読語にはふりがなを)、左半分に郵便番号・住所(マンション名も)・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記のこと。小中高生は学校・学年も明記のこと。  
◆出詠料…1首1,000円(定額小為替にて。小中高生は無料)。詠草集送付のための切手(50円切手2枚)を、作品と同封のこと。  
◆締切日…一般=平成21年8月末日(当日消印有効)  
小中高=平成21年9月8日(当日消印有効)  
◆送り先…〒811-4175 宗像市田久5-25-17  
「宗像大社短歌大会」実行委員会事務局宛  
「小」「中」「高」「一般」の別を朱書きのこと。  
◆問合せ先…上記の送り先へ往復葉書で。

- 選者  
小中高生の部=桜川冴子  
一般の部=青木昭子・桜川冴子・中西輝磨・野田光介(50音順)  
※講演=中西輝磨 題目=「短歌のいろは」
  - 発表 平成21年11月15日(日) 大会当日  
選考結果送付希望の方は、90円切手を貼った返信用封筒を作品に同封して下さい。
  - 賞  
小中高生の部=宗像市長賞・宗像市教育委員会賞・宗像大社賞・毎日新聞社賞・奨励賞  
一般の部=福岡県知事賞・福岡県教育委員会賞・宗像市長賞・宗像市教育委員会賞・毎日新聞社特別賞・宗像大社宮司賞・宗像大社氏子会賞・宗像大社賞・毎日新聞社賞・優秀賞
  - ◆主催/「宗像大社短歌大会」実行委員会  
◆共催/毎日新聞社  
◆後援/福岡県・福岡県教育委員会・宗像市・宗像市教育委員会・宗像大社・宗像大社氏子会
- ※応募によって得られた個人情報は、本大会以外に利用しません。

平成二十一年度

# 夏越の大祓神事

なごし

恒例の夏越祭が近付いて参りました。このお祭りは、大祓神事を中心に行われ、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日を無事に過ごしていただくための祈りを込めた神事でございます。

本年も左記の通り斎行致しますので、皆様お誘い合わせの上御参拝下さいませよう御案内申し上げます。

## 日時

七月三十一日(金)  
午後五時

## 場所

おほほらえ  
大祓神事 引き継ぎ  
なごし  
夏越祭斎行



# ロボット開発センター

## 開業安全清祓式斎行

五月二十五日、医療や介護、生活支援分野のロボット開発の拠点となる社団法人「ベータ国際ロボット開発センター」が、旧宗像市役所玄海庁舎(かつての玄海町役場)に開所することとなり、その安全祈願祭が当大社より神職が出席し無事斎行された。

当大社で二足歩行ロボットの安全祈願祭、プレス発表を平成十八年十二月に行った北九州市のロボット製造ベンチャー企業「テムザック(高本陽一代表取締役)」が、同じ旧玄海庁舎でドクターヘリを運営している医療財団法人「池友会(蒲池真澄会長)」から建物を借り受け、ドイツ、イタリアを含む国内外の大学や研究機関十組織が連携し、国内初となる施設が開所することとなった。

当日は神職二名が出席、ロボット研究の発展、研究所の安全を祈念した祝詞が奏上され、大麻と切麻でセンター内各所を祓い清めた。

橋爪誠理事長(九州大教授)をはじめ早稲田大、九州工業大学、ドイツ、イタリアの研究機関の関係者が参列し、敬虔な祈りを捧げた。今後、企業や行政からの

受託開発、研究プロジェクト発案などを行い、最先端技術を結集しロボット製品の実用化を目指す。  
センターの今後益々の弥栄を心より御祈念申し上げます。



(続)

# 浜の寄物

237

しいただし



前回でウミガメについて話したが、ウミガメの死骸漂着は、なんとも痛ましい。鶴は千年、亀は万年というがオサガメはプラスチックやビニールを食道に詰まらせたり、他にクロープや魚網を絡まして死んでいるケースが多い。

田淵遺跡から出土したらウ

ミガメの腹甲は亀トに使われていたかどうかはわからないが、弥生時代には、鹿や猪の肩甲骨を使って占いが行われていた。中国の殷時代では陸亀の腹甲を利用して亀トが行われていた。その腹甲に刻された文字が、甲骨文字といわれ漢字のもとになったのである。北京や上海の博物館で展示されているのを見た。

も刻されていた。弥生時代以降の占いは神奈川や千葉県で遺跡から出土している。九州では長崎県壱岐の串山ミルメ浦遺跡、対馬市志多留貝塚から出土しているがいずれも亀トである。六世紀末から八世紀ころという。亀トに使われる海亀はアカ



殷代の甲骨文字(亀ト)

私が終戦後、小学生の時に、友達が家から持ち出してきた甲骨文字が刻された亀トを見たことがある。「文字のはじめだ」と友人は話していた。甲の色が鈍色をしていたのを覚えている。

後年、中国を旅行した時に博物館の売店でレプリカの亀トを買ってきた。陸亀の腹甲をそのまま使われて、甲骨文字跡は大形柱列



古賀市田淵遺跡の舟

群が見つかり、糟屋屯倉の候補地の一つとなつている。遺跡のⅡ区調査区西側の包含層から興味深い遺物が出土している。大形滑石製舟形の未製品が一点出土した。全長二〇・四センチ、中央部六・五センチ、厚さ二・二センチ、舟尾は反つている。古賀周辺で滑石製の舟形を出土しているのは、沖ノ島で一号、三号の露天祭祀から一〇九点ほどが出土している。期的には八〜九世紀頃である。

古賀の田淵遺跡は、花鶴川河口に広がった潟湖の奥に位置し、官衙的大形建物が検出されたところである。また一次調査では包含層から二点の舟形土製品が出土している。一点は舟の船首部で三センチ、復元したら二〇センチほどとなる。もう一点は小さいが、周辺は小さく欠けたり摩耗しているが完形である。全体の大きさは三・五センチの舟である。報告書では「国家的規模で行われた沖ノ島祭祀に使用さ



鹿部田淵 未製品

沖ノ島出土



アカウミガメ

# 第五七五回 宗像大社歌会詠草

大野展男選毎月25日メット



【評】

福津市 若木台

野間 精一

干し蛸とイリコがわれへの土産にて四国の旅より妻帰り来ぬ  
夫の好みを知る妻ならではの四国土産。簡明で味わいのある一首。

【評】

北九州市 八幡西区

吉田ウト子

新キヤベツ水玉走らせ瑞みづし庖丁当つればバリツと裂けつ  
生命溢るる新キヤベツのさまを見事に捉えている。

【評】

福岡市 南区

井田有久衣

修道女スニーカーをはきスパーへ食材求め手押し車で  
修道女も生きるために食う人間である。ことへの驚きの歌である。

【評】

宗像市 田久

井上 光

みどり濃き若荷を噛めば固けれど香りひろがる初夏とぞ思ふ  
このような初夏のとらえ方も面白い。二句は「茗荷はわが歯に」がいい。

【評】

宗像市 大島

杉田 禮子

出漁の刻待つさまに吹きはじむ春の一夜の西風強し  
変り易い春の気候を、三句切れで力強く詠い且つ生活感もあつて好ましい。結句は「強き西風」としたい。

【評】

宗像市 田久

巻 桔梗

ほんじつは結婚記念日み社の藤にみつばち祝ひ曲ひく  
蜜蜂の羽音を祝いの曲とし、初句を「ほんじつは」としたり照れ隠しの気分が見えるのは人柄だろう。

【評】

福津市 星ヶ丘

佐々木和彦

途中にて途切れる坂のあなたは塔が輝く朝日を受けて  
途中で途切れる坂とは、どんな坂だろうか、下句は印象鮮明な景だけに惜しい。

【評】

宗像市 自由ヶ丘

一木 照代

葉桜の病院の庭散歩する家にいたり病院に来たり  
老いの姿がうかがえる歌。下句は「今日は家から病院に来て」がいい。

【評】

福津市 若木台

山崎 公俊

ふりかえり振り返りつつ神籬の岡ゆ下れり昼闇の杜  
気分の出ている作だが、このままでは昼間の杜が岡を下っていることになるので、結句は「杜は昼闇」とする。

【評】

宗像市 土穴

山本 静子

見知らぬに日傘ほむれば藍染は娘の手作りと媼ほほえむ  
風景は判るが、事柄の詰め込み過から語順に無理がある。(藍染めの傘をほむればほほえみて娘の手作りと媼は答ふと直してみた。

【評】

北九州市 八幡西区

豊田ミツ子

いくさ敗れ北朝鮮を引き揚ぐに死なむと迷ひぬ二十年九月  
六十余年経つてもなほ消えない記憶である。

【評】

宗像市 田野

森 甲子

大樟に巻きつく山藤さき盛り夕づく風に香りのせくる  
蜂だけでなく人も酔わす藤の花の匂い、大樟に巻きつくとあれば尚更であろう。

【評】

北九州市 戸畑区

田中ハツセ

平和とは幸せならむ月満ちて髪黒々と可愛ゆき曾孫  
上句は「月満ちて生れきたりて平和ちゃん」なら判るが、原作のままでは判らない。

【評】

宗像市 東旭ヶ丘

天野 玲子

釣川に沿うて走れば麦秋に熟れたる穂波の黄の色まぶし  
美しい景だが下句は麦秋の追加的説明に終わって残念。「麦秋に」のかわりに「一面に」などが考えられる。

【評】

福津市 中央

池浦千鶴子

山畑に野苺摘み来者あらず露の若葉に包みて帰らむ  
者は人のこと、物は物体、物品のこと。ここは物でないと一首が成立しない。

【評】

宗像市 日の里

大和美由紀

春日差す末黒となりし湿原に蛙の声がのどかに聞こゆ  
野焼きのあとの景だが、「末黒としなりし湿原春日差し」と上句をするのが順直な述べ方であろう。

【評】

宗像市 浮羽町

向 則正

わが庭の樹木は切られ整地され息子の家は建ち初めたり  
庭木を失う悲しがあり家の建つ喜びがある。

【評】

福津市 花見

佐藤 純一

ドクターは長谷川浩二病名は一目みまくりみやぶけるなり  
福岡市 南区 加野シノブ  
満開の桜は散りぬおぼろ夜のかしこき友ようつつなりと

【評】

宗像市 花見

佐藤 純一

今日は行くこと叶はねど印浪立つ巖流島に煙のぼりをり  
西風に三角波立つ海峡の乏しき浜に童ら遊ぶ  
草丈の尺余の牡丹が鞠歌の手まりのやうな花咲かせたり

# 第五十回 俳句作品集

宗像市 神湊 永島 紀子  
花冷えや新造渡船出港す

宗像市 東郷 田中 憲象  
拍手のひろがる新緑許斐山

宗像市 光岡 白土 凌一  
梅雨の中雨も気にせずバスハイク

## 編集後記

愚息が二人となつてきたため、アパートから一戸建てに引越しました。以前の家からも近く、散歩中に目の前を通りながらずっといいなと思つていた家です。知人でもある家主さんが転勤となり小生が借りることになった訳ですが、その家からここに住めと呼ばれているような不思議な御縁でした。玄關を出ると田植えを終えた田が一面に広がり、右に許斐山、左に四塚連山を望みます。特に城山から昇つてくる月の美しさは格別です。近所は八軒と少なく、我が家以外は先祖代々この地に住んでおられる生粋の「宗像人」。御高齢の方が多いせいか、子連れ一家を大歓迎していただいております。▼アパート暮らしではありえなかつた夕食のお裾わけや、不意の雨天時には洗濯物をひいていただいたり地域温かさも実感しております。▼住む家や周辺環境が果たして小生に、家族にどんな影響をもたらすか分かりませんが、愛妻の機嫌は引越してからすこぶる良好な気がします。(塚)

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1311(代)  
発行人 葦津幹之  
編集人 大塚宗延  
制作 セネラルアサヒ  
印刷 セネラルアサヒ

宗像大社事務所  
発行所 宗像大社

毎月1日発行 定価1年送料共1,000円